地歴公民（日本史）　早稲田大学　文学部　1/1

＜全体分析＞

試験時間　60　分

解答形式

マーク27問（語句選択５問、正誤判定21問、年代整序１問）、記述20問　　計47問

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問数６題は昨年度と同じだが、設問数が１問増加して 47 問となった。解答形式は、語句選択問題が昨年度の 13 問から大幅に減少して５問となった。一方、正誤判定問題と記述問題がそれぞれ４問増加した。また、昨年度は出題がなかった年代整序問題が復活し、１問出題された。

出題の特徴や昨年との変更点

大問Ⅰでは、昨年度は出題がなかった原始時代の考古学分野を扱う問題が復活した。また、昨年度は大問Ⅱのみ史料問題であったが、大問Ⅲも史料問題となった。大問Ⅵが図版を用いた設問を含む文化史問題であることは、例年と変わらなかった。

その他トピックス

大問Ⅴについては、2024年度早慶レベル模試第３問において「普通選挙実現までの歴史」のテーマで同類の問題を扱った。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント(設問内容･答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅰ	語句選択 正誤判定 記述	原始の文化・社会	全体的に平易な問題であり、早稲田大学志望者であれば全問正解が望まれる。	易
Ⅱ	正誤判定 記述	『弘仁格式』序文にみる律令制定の経緯　≪史料≫	問２は、やや細かい知識だが、早稲田大学志望者であれば正解したい。問６は、史料を読み取ることで正解を導けるだろう。	やや易
Ⅲ	語句選択 正誤判定 記述	中世の武家法 ≪史料≫	問１は、やや細かい知識だが、早稲田大学志望者であれば正解したい。問７は、史料ⅰ・史料ⅳを『建武式目』の条文だと判断するのが、やや難。史料ⅲは、問５の内容を踏まえ、史料が発せられた時期を特定したい。なお、問２の中世の連歌・和歌に関連した事項を問う問題は、2024 年度早慶レベル模試でも扱った。	やや易
Ⅳ	正誤判定 年代整序 記述	江戸時代の城下町と江戸城	問７は、ア・イの２択まで絞れるが、D（徳川慶喜の大坂城への引き上げ）の判断が、やや難。	やや易
Ⅴ	語句選択 正誤判定 記述	普通選挙実現の過程からみる政治・社会	問１は、愛国公党が民撰議院設立建白書を提出したことを想起できれば正解できた。問３は、早稲田大学志望者であれば、イを正文だと判断したい。問 12 は、難。	標準
Ⅵ	語句選択 正誤判定 記述	中世・近世絵画史の新知見≪図版≫	問４は、難。問５は、やや難。問６は、早稲田大学文学部志望者であれば、正解したい。	難

※難易度は５段階「易･やや易･標準･やや難･難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

合格点を確保するには教科書を丹念に学習することが必要である。文学部の特徴として、大問Ⅵでは例年難度の高い文化史が出題されるので、図版の正確な理解を含めた対策が肝要である。また、正誤判定問題や記述問題の分量も多いので、過去問演習への取り組みや、基本的な歴史用語を正確に書く練習も怠らないようにしたい。

© 河合塾　2025 年